

2020年度厨房設備士試験実技試験結果 講評

2級

(1) 離隔距離を答える問題

業務用ガス機器の設置基準に基づいて餃子グリラーを設置するとき、周囲壁の材質(不燃材料、可燃材料)を考慮した上で、餃子グリラーがガス機器防火性能評定品である場合と無い場合など、それぞれの条件下での壁からの離隔距離を答える問題でしたが、事前講習会での説明や過去問題での練習などを行うことで、理解している受験者が増え、高い正解率でした。

(2) 厨房平面図の機器穴埋め、シンボル記入、機器リスト空欄埋め問題

①機器穴埋め

機器の選択については、大半の受験者が作業フローを理解出来ており、高い正解率でした。しかし、図の書き方については、不適切なものが多く見受けられました。

(不適切例)

- ・冷蔵庫 : 扉の軌跡の書き方(フリーハンドで書いているなど)
- ・ガスフライヤ : 油槽の手前に燃焼室があり、深い部分に中間加熱用の浸管があるため、深くなっている部分に浸管の図若しくは×印(シンクと同じ書き方)を記入する
- ・ガスレンジ : オープン扉の未記入、オープン扉開口の書き方
- ・製氷機 : 扉開口の書き方
- ・スチームコンベクションオープン : 配置場所(機械室側にはメンテナンススペースが必要)

②シンボル・フードの記入

全体としては、高い正解率でした。

(間違いの多かった箇所)

- ・コーヒーマシン用の電気シンボル
- ・アイランド部フードの書き方(製品一つひとつにフードを記入している場合のフード接続部)

③機器リストの空欄埋め

機器の穴埋めがよく出来ていた事もあり、高い正解率でした。

(間違いの多かった箇所)

- ・ドアタイプ食器洗浄機用のガスシンボル未記入

まとめ

全体としては、とても素晴らしい結果でした。

厨房平面図の機器の穴埋め、シンボル記入、機器リスト空欄埋め問題は、例年同じ傾向の出題方法としている為、比較的高い正解率となっていました。

離隔距離の問題についても、可燃物となるもの不燃物となるものがどのような材質であるかをしっかり理解した上で、必要な離隔距離を導き出し、高い正解率となっていました。

図面は、言葉などでは伝え切れないことを相手に伝えるための伝達手段の一つです。その書き方にはルールがあり、そのルールに則る事で誰が見ても同じ物であると認識できます。

書きたいように書くのではなく、相手に伝わるように書くことが重要である、と理解して頂きたいと思います。